毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

編輯兼發行人　香山清和
發行所　長野縣上田市　上田蠶絲專門學校千曲會
印刷所　長野縣上田市原町　中澤印刷所

絹の新規利用に就いて

横澤平

一、緒言

戰時下、皮革、綿資材及び「ゴム」「カゼイン」等の接着劑の輸入禁止或は統制に因り、その工業用品及裝飾用品製造界は深刻且つ極致の恐威を受けるに到り、當局及び當業者は之が對策として、その代用品を渇求するも凡そ國産資源にして豐富なる資材は容易に得られず、加之見るべき代用品はあるも使用すべき代用品は無き現狀である。

茲に於て豐富なる國産資源として吾等の眼界に登場するものは、日本古來の絹織維である。而して時代のこの絹織維利用に、從來の總ての觀念を改めさせ、全然新規にして獨特なる「アイディア」の下に之が利用を行はざるを得なくなり、之に大膽にして且つ果敢なる絹織維の工業用品化を試み敢て世人江湖の高見を叩かんとするものである。

二、絹織維應用の工業品化への「アイディア」

時局は皮革、綿織維資材と接着劑の缺乏甚しく、その製品は涸渇を待つばかりである。絹織維は皮革綿の代用織維とし又、從來稍もすれば等閑に附され勝ちな「セリシン(絲膠)」を「ゴム」及び其他の接着劑、或ひは「スケール」の代用たらしむべく「絹織維」と「セシリン」との巧なる結合体を作り、更に之が加工 處理に因り有爲なる性能を附與し以つて從來の工業品以上の優秀なる製品を得るものである。

三、絹織維の工業用品化

上記の「アイディア」の下に「セリシン」を應用して Sericinite (强靱皮革)と稱する「絹織維」と「セリシン」との巧みなる結合体を得。次にその各厚さに於ける强伸力及比撥水度を示す。

各厚さの强伸力と比撥水度

厚さ 1″/1000 單位	强力 kg	伸度 %	比撥水度
五	五、五	三、五	〇、八
一〇	一四、七	五、〇	〇、九
二〇	二六、三	六、八	一、〇
三〇	四七、四	八、四	一、二
四〇	五二、九	八、七	一、三
五〇	七二、〇	九、〇	一、五

備考　强伸力供試用紙は巾一吋、長一五吋のものを檢す。比撥水度は防水試驗器にて計れる水壓柱四〇糎を單位一とす。

特徴　一、輕量、强靱

二、皮と同じく氣孔を有す
三、耐水、耐湯、耐熱、耐酸、耐油性大
四、電氣的絕緣性大
五、防香性あり
六、厚薄、硬軟自在
七、巾一米、長さ無限
八、價格低廉

(1) 皮革

皮革としては Sericinite 原革に柔軟性を與へ、塗裝、押型して優秀なる皮革を得、特徴としては輕量强靱、皮革と同樣氣孔を有し、油、水、重油、揮發油、アルコール等に强く、而して長さ無限、使用自在、厚薄、硬軟自由なる點にあるのである。既に大朝主催戰時下代用品發明考案懸賞に皮革としては第一位、代用品としては第二等賞を獲得、而して諸賢の周圍に用ひられつゝ有る「セクシナイト」及「シルクカーフ」は共に本品である。

以上の如く皮革としては充分且つ勝れる皮革となり、その用途に就いては一般皮革代用品として又、特殊皮革として電車、汽車、一般袋物として用ひられてゐる。而してその工業用皮革としては他品に見る如き裝飾用と異り獨自の强力を有するものである。

(2) シートパッキング

シートパッキンクとしては從來悉く舶來品に限られ、クリンゲツト、ファイバー、バルカー、ペルモイド、ラバー、アライド等皆外國品を主として居り之が製法及資質は本邦の追隨出來得ぬ所であつた折柄、この Sericinite を應用し適宜特殊の處理を施し、通氣性を減じ、耐水、耐油、耐熱、耐酸性を附與し以つて「シートパッキング」を製し主として水、油重油用「パッキング」としてペルモイドアライドの代用品たらしめ、その性能は左に示す如く優秀である。

一、耐熱、耐水、耐酸、耐アルカリ、耐油試驗

外觀の變化

試驗片名	厚、色 mm	耐熱 二〇〇℃ 五hr乾燥	耐水 三〇℃ 二四hr	耐酸 二五% HCl 三〇℃ 二四hr	耐アルカリ 五% NaOH 三〇℃ 二四hr	耐油 二號外部鑛油 三〇℃ 二四hr
セリシナイト	〇、八(赤褐)	やゝ硬直	やゝ柔軟	變化なし やゝ柔軟	原形をとどめず	變化なし
ペルモイド	一、五(薄茶)	やゝ硬直 變化なし	三、〇mm膨張 吸濕甚し	二〇膨張なく柔軟	三、〇mm澎張 柔軟	變化なし
	一、〇(〃)	仝上	一、三mm 〃	變化なく やゝ柔軟	一、四mm〃	仝上
アライド	〇、八(濃紺)	殆ど變化なし	變化なし	變化なし	一、〇mm 膨張、褪色	變化なし

抗張試驗

試驗片名	厚、色 mm	生材料 抗張力 Kg/mm²	生材料 伸%	耐熱 抗張力 Kg/mm²	耐熱 伸%	耐水 抗張力 Kg/mm²	耐水 伸%	耐酸 抗張力 Kg/mm²	耐酸 伸%	耐アルカリ 抗張力 Kg/mm²	耐アルカリ 伸%	耐油 抗張力 Kg/mm²	耐油 伸%
セリシナイト	〇、八(赤褐)	一八、三	八	一、五	〇	二四、一	八	二四、〇	一〇	原形を留めず		三五、〇	九
ペルモイド	一、五(薄茶)	二一、〇	七	三、〇	〇	三五、〇	四	六、五	三	二、四	六	一〇、五	六
	一、〇(〃)	一〇、四	七	三、二	〇	一四、〇	八	一〇、二	一〇	三、五	八	一〇、五	八
アライド	〇、八(濃紺)	一八、〇	七	五、〇	〇	二〇、七	三	二九、〇	五	八、八	四	一七、五	七

押出試驗

試驗片名	厚、色 mm	生材料 荷重 Kg	生材料 歪 mm	耐熱 荷重 Kg	耐熱 歪 mm	耐水 荷重 Kg	耐水 歪 mm	耐酸 荷重 Kg	耐酸 歪 mm	耐アルカリ 荷重 Kg	耐アルカリ 歪 mm	耐油 荷重 Kg	耐油 歪 mm
セリシナイト	〇、八(赤褐)	九七、〇	二	三八	七	九〇、〇	九	一〇、五	一〇	原形を留めず		九一、〇	二

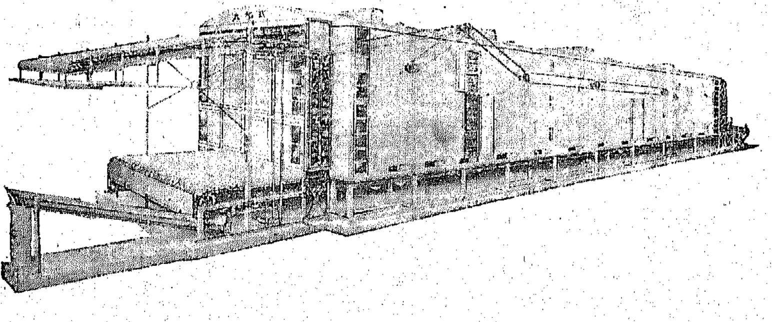
謹賀新年

現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

二五九九年代表型

【各種型錄贈呈】



營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまナホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

ベルモイド	一、五（薄茶）	八五、〇	八	六三	九	九〇、〇	八	四四、〇	七	一四、〇	八	九〇	一〇
	一、〇（〃）	四三、五	六	三	七	五四、五	六	三五、〇	一〇	二、六	六	五四	一〇
アライド	〇、八（濃紺）	一七、〇	四	三	六	一六、〇	五	三九、〇	一〇	九、〇	六	三	八

以上の如く「セリシナイト、シート、パッキング」は耐水、耐油用としては絶好の國產シートパッキングとして川崎造船所の推奨を受け現在、各艦船會社、鐵道及び航空機會社に採用されつゝあるものである。

(3) 絶縁テープ

絶縁テープとしては、〇、二五mm位のものを從來の「綿テープ」代用として用ひ、之が性能は著しきものがある。即ちその耐壓試験を示せば次の通りである。

「セリシナイト」絹紙絶縁テープ耐壓試験成績

「コットンテープ」代用品としての「セリシナイト」絹紙テープ　厚八mm巾〇、六二五mmのものを銅棒半重捲き二回　三回、四回の試験片を作り、これを一〇〇度　の乾燥室にて二晝夜乾燥せしめたるものを取出し耐壓試験をなせり。

ニス漬のものは乾燥液アメニスにて三回ニス漬作業をなせり。之と比較するために厚、幅同様の「コットンテープ」を使用して同様の試験品を作りて試験をなせり。

一、ニス漬セザルモノ「絹紙テープ」及「コットン、テープ」破壊電壓

テープ別	1/2「ラップ」二回のもの	1/2「ラップ」三回のもの	1/2「ラップ」四回のもの
絹紙テープ	二〇八〇V	二六三五V	三一七〇V
コントンテープ	一四六三V	二五七五V	二五八五V

二、ニス漬二回のもの「絹紙テープ」及「コットンテープ」の破壊電壓

テープ別	1/2「ラップ」三回のもの	1/2「ラップ」四回のもの
絹紙テープ	三八五五V	四八七〇V
コットンテープ	三七五〇V	四一六〇V

要結　絶縁耐力はニス漬せるもの及びせざるもの何れも「絹紙テープ」の方良好なり

（三菱電機株式會社神戸製作所試験結果抜粋）

以上の如くこの「絶縁テープ」は先づ耐壓に於て「綿テープ」に比較し三〇%良好にして更に輕量なる點又は薄くて耐壓完全の爲めその「スペース」を減じ得る點はテープ使用に於ける收容量を大ならしめ以つてその「電氣的キヤパシチー」を増大し得。特に現在航空機、電車等の移動モーター、コイルに用ひられる所以である。

(4) その他

「絹織維セリシナイト」の絶縁性及び多孔性と輕量、強靭等の諸性質を應用して「セリナイト」原紙又はその處理紙布革は現在次の如く用ひられ、特許を得つゝあり。

飛行服、靴及投下箱……輕量、強靭の點
フイルター（濾過紙）……油水に強靭、多孔性及び數回用ひられる點
セパレーター……輕量　強靭且つ電氣的絶縁体の點
ローハイドピニオン……強靭にして細緻密硬度を有する纖維蛋白質の結合体なる點

その他工業用品基布及び被覆材料としての用途に向けらる。

四、要結

新規なる點の意味に於ける「アイデイア」の下に前述の如く絹の工業用品化は多種多様の用途に向けて好評を博しつゝ有るは誠に「Silk」として從來の觀念の如く、尊く感銘するものであると同時に現下戰時、和平を超越して永久に過去の工業品を凌駕して殘る可き絹の新工業用品は一に以つて吾等が研究に俟つものである。絹織維こそ吾等に與へられた大なる至寶であり、之が研究と努力とに因りては更に大たる、且つ眞の新規用途が何處かに必ずや有るものと確信するものである。（昭和十三年十二月八日記す）

母校ニュース

第六回蠶學談話會 豫告の如く、第六回千曲會蠶學談話會は去る十二月四日、母校千曲會館に於て午前九時より開催、出席者約三〇名、會員の眞摯なる研究發表あり、午後よりは論題に就ての研究討議をなし、各位忌憚なき意見、抱負の開陳あり、甲論乙駁、盛會且つ有意義裡に午後四時散會す。

研究發表　午前九時―十二時

一、天蠶微粒子病除去の實例並に其の方法に關する檢討……横山忠夫
二、蠶卵の發育初期に於ける障害に對する抵抗力……山口定次郎
三、桑葉面に現はるゝ紫外線螢光に就て……山崎壽
四、蠁蛆驅除法としての蒸桑法特にその次代に及ぼす影響……勝又藤夫

研究討議　午後一時より

論題、原蠶の發育と次代蠶との關係

文部省會計實地監査 母校では十二月五日から三日間に亘り文部省會計實地監査が行はれた。

談話會納會 今學期の棹尾を飾る談話會納會が十二月十日（土曜）午後一時より千曲會館階上に開かれた。演題及び談話者は次の如くで啓發される所實に大なるものがあつた。

一、湖水中の酸素に就て　志田敬夫
一、セリシンの特性二、三と其應用　奥正己
一、家蠶の發育に伴ふビタミンCの消長　蒲生俊興
一、本年のノーベル賞に因みて　原田親雄

圍碁倶樂部小集會 十二月十日（土曜日）午後一時より千曲會館日本間に於て圍碁倶樂部小集會を行ひ夜九時頃迄かゝつた。一流組の勝敗を示すと古谷氏二勝清水氏二勝一敗、細谷氏一勝、宮本氏一勝二敗、行元氏三敗となり其他の參加者は小泉、志賀、小林、田玉、北村、町田、村瀬の諸氏であつた。尚當日は菊岡初段格を聘して實地指導を受けたが今後も斯る事は續けるそうである。

暖房入る 例年は十二月一日から煖房を入れてゐた母校は本年は戰時体制下、經濟強調にて燃料を節約の爲、且幸に本年は例年より寒きも烈しくなかつたので延期して十二日の學期試驗の開始日から煖房を入れた。何休暇も二十日からにて例年より五日早いので燃料の節約は大分出來る譯である。

蒲生教授青年團講習會に講演 十二月四日蒲生教授は市內呈蓮寺に開講された上田市聯合青年團修養講習會の第二日目に「本邦蠶絲の現狀及び將來」と題され吾蠶業都市上田の青年層に蠶絲業の認識を深からしめた。

金澤勇氏御結婚 屋代高等女學校勤務の傍母校囑託として倉澤教授の天柞蠶の研究に從事されてゐる金澤勇氏（蠶十七）は横關衞三氏の媒酌により市内坂下濱村友治郎氏令妹眞佐子嬢と婚約整ひし十五日市内大神宮に於て華燭の典を擧げられた。因みに新婦は本年二十五歲上田高女出身の才媛である。末永く御幸福の程を祈る次第である。

小畠武明氏新任 本年紡織科出身小畠武明氏は卒業後出雲製織石見人絹工場に勤務せられしも病を得て退職、療養中の處、健康体に復されしを以て十二月十五日附紡織科小松講師の下に副手として勤務せらるゝ事なつた。

高田正氣氏退職 先月母校人絹部に臨時副手として入られた高田正氣氏（絲二五）は一月入營される爲め十二月十五日退職同日郷里に出發された。

日幡映一、小松忠幸兩氏退職 本年養蠶科卒業、蠶絲科學教室奥教授の下に副手を勤められし日幡映一氏及び本年製絲科卒業、製絲科に副手を勤められし小松忠幸氏は何れも國家の選良として入營せられる事となり、十二月十九日附退職された。

金一封を國防獻金 本年一月四日志賀高原、吹雪の笠括山中にて人命救助を敢行して先頃縣より金一封を授與されたる阿形一三（蠶二五卒）、內海弘（絲二三五卒）目崎武美（蠶三）宮田皓（絲三）、北村元三郎（蠶二）、の五氏は全額を國防獻金する事となり、阿形氏が代表で上田警察署に至り獻金手續をなした。

三氏スキー講習會受講 明春一月六日から十五日迄十日間菅平文部省体育研究所に於て擧行される第七回スキー指導者講習會に、本校よりは香山清和、志賀章雄、武井仙太郎の三氏が受講せらるゝ事に十二月十九日附決定した。

校友會誌懸賞論文 文藝部では明年三月發行の校友會雜誌第廿五號に登載すべき懸賞論文を左記課程の通り募集したが何れも蠶絲業緊急問題許りである。因に締切は明年一月廿一日、使用枚數は原稿用紙四十枚以內との事である。

課題

一、支那蠶絲業の對策を論ず
二、繭絲の羊毛化工業に就て
三、羊毛化工業に於ける天然絹絲の代用價値
四、新蠶絲政策としての特殊繭問題
五、多絲量蠶品種と蠶作問題
六、其他蠶絲科學織維領域に於ける研究論文

學期試驗及冬季休暇 學期授業は十二月十日迄で十一日、十二日（日曜）休日、十三日、十四日試驗、十五日休日、十六日、十七日試驗、十八日休日、十九日試驗で二十日から明春一月十五日迄冬季休暇となつた。例年の冬季休暇は十二月廿五日から明春一月十日迄であつたのを煖房費節約の爲め夏季休暇、春季休暇を五日宛減じ斯く冬季休暇を十日增加したのである。

入學案內のポスター廢止 本校では例年色刷の入學案內ポスターを作成し全國主要地に揭示したのであるが、本年は時局柄消費節約の意味で作成しない事とした。

入學案內

一、募集人員　養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計百名
一、出願期日　試驗檢定　一月十一日より三月十五日迄
　無試驗檢定　一月十一日より一月卅一日迄
一、試驗科目　數學（代數、平面幾何）、英語（英文和譯）
一、試驗期日　三月二十三日（午前學科、午後體格檢査、口頭試問）
一、試驗場所　上田（本校）、東京（文理科大學）、名古屋（第一師範學校）、京都（高等工藝學校）、岡山（醫科大學）、福岡（九州帝大農學部）
一、入學案內書入用者は郵券三錢封入本校教務課宛申込次第送附す

製絲教婦養成科入學案內

一、募集人員　約十五名
一、出願資格　一、高等女學校卒業者又は之れと同等の學力を有するもの
　二、高等小學校卒業後一ヶ年以上製絲業に從事せるもの
一、出願期日　一月十一日より三月廿二日迄
一、試驗科目　數學（算術、代數、平面幾何）、國語（作文を含む）
一、試驗期日　三月廿六日（午前學科、午後體格檢査、口頭試問）
一、試驗場所　上田（本校）
一、入學志願者心得入用者は三錢切手封入本校教務課宛申込まれたし

上田蠶絲專門學校

本會記事

中支旅行中の倉澤教授より

拜啓　年末嘸かし御多忙の御事と奉存候今回小生當地出張に對し種々御便宜御取り計ひ被下難有厚く御禮申上候。九日當地到着以來本日を以て丁度十日間を經過致し、明二十日は愈々青島に向つて出發せんと致し居り候。此の間、南京二泊、無錫一泊、蘇州に二泊し一旦上海に引返し又抗州に一泊致し上海に歸着仕り候。

上海見物は十九日午後半日にて市政府並に南市方面を見學致す豫定にて午前窓外の雨に旅愁を味ひつゝ御報告仕り候。此間、本校の卒業生には上海にて飯島貞雄君(紡一)、抗州にて佐瀨旭君(蠶六)、無錫にて顯見喜六(絲三)、矢田部忠吉(絲二)吉開亮一(絲七)、石附文吾(蠶一五)の四君に面會致し、久保田昌人君(蠶七)に面會すれば殆んど全部の同窓に面會致したる事に相成り候。又支那人にも出來る丈面會せんと極力探索し某君以下十名を訪ねあて丶、夫々會見を遂げ、彼等は彼等としての不平と希望を有するを聽取仕り候。華中蠶絲の諸君が訪ねんとしも不明であつたり、何うしても會はざる者多く、十名の中二名位は華中の人々と會ひたる様子に有之候。彼等の目下の態度は非常に苦しき立場にありて進退兩難の立場にあり。何等かの方法にて日本側化せしむる要を痛感仕り候。蘇州の二、三里先に許野關と言ふ驛あり其の十町後方に蠶種八十万枚を作る中心業者大有蠶種製造所有之、其所へは無錫にても危險に付極力中止方勸奬有之候ひしが白澤幹君(蠶五)の例の押しの手で驛から護衛して貰ひ華中蠶絲の石附君を連行して訪ねあて感激的な握手を仕り彼等の眞意をも知り華中としても大いに得る所ありたる模様に有之候。其の間、小生は蘇州にて待ち居候。特に小生に逢はんと社長以下五名蘇州迄出向し一夜招宴を試みくれ實に愉快に有之候ひき。內三名は本校に遊學せし諸君にて或程度迄忌憚なき意見の交換も出來候。彼等の行動は蘇州迄僅か數里を出づるも不便多くあまつさへ身体檢査を隨時に行はるゝに付き不快のこと多からんと想像仕り候が宴會後寫眞館を迎して記念撮影する等懇懃を極めたるものに候ひき。抗州に王福山君(蠶一七)を訪ね候所上海に行きし由聞き及び上海の宿を訪ねあて丶昨夜連れ出し之亦種々懇談仕り候。(一部省略)周元功君(蠶一七)に今夜二度目の會見をし大有蠶種と華中蠶絲の協力を合理化せしむる樣忠言したく存じ居り候。領事館、特務機關、支那要人等白澤君の押しで訪ね廻り非常に得る所有之候。到底不肖の獨り旅では問題にならず此の點より見ると今回中支の旅行は先づ成功せるものと存じ大いに喜び居り候。乍然其れ丈事務的に陷り見物の出來ざるは遺憾と存じ候も之も致し方なき事と存じ候。要するに日本の凡ゆる機構を支那側より批評せしめて其の眞意の幾分を知りたる感有之、又一面華中蠶絲の一部の人に支那の蠶業の意志を傳達すると同時に兩者を幾分接觸せしめる所もあり一千萬分の一の國家への御奉公と存じ少くとも自分一人としては諸先生並に同窓各位の御厚志に答へたる心地し中支を去らんと致し居り候。出先き日本人の支那に對する態度の顰蹙する事も頗る多く又非常に困難に戰ひ居らるゝ事も見聞し、日本內地に於ける認識の不足も充分判明し長期抗戰の愈々之より始まらんとする光景も感知し朧げ乍ら現狀を直視する事を得申し候、何れ御面接の上萬々申上度候。支那の蠶絲業も今は華中蠶絲を以つて統一せんと致し居り候も前途多難たるを想像致し居り候。然し如何に多難なりとも之を完成せざれば第三國の利益に終り日本は何等益する所無之樣被存候。現在華中蠶絲が目標とする所も戰前の最大量にも及ばざる製絲釜一萬釜、上海より外國行き四万擔の程度故日本にては群馬縣一縣にも及ばざる程度に付心配のことも無之、若し此の儘に放置すれば佛、英米の資本の活躍を增大するのみに有之候何れ歸國の上に讓り大要御報告致し中支を去るの詞と致し候。

未だ交通不便にて豫定更に立たず青島に渡りし後は陸路を濟南を經て北京、天津に行けるや、海路大連に出づる要あるや不明にて豫定相立たず閉口仕り候。滿洲迄出ればあとは豫定のコースを通る積りに候。青島即ち山東の蠶絲業大ならずと雖も中澤君居らるれば多少聞くことを得んか！あとは湯川兄の柞蠶業に主力を注ぎ多少得る所あるを期し居り候。

本手紙の着く頃は殆んど年末にて萬事御多忙の御事と存じ候。不肖留守中種々と御迷惑相かけ候段恐縮に存候。何分よろしく願上候。歸宅は多分十日過ぎと存じ候。末筆乍失禮、校長先生、月曜會員諸兄、同窓會々員諸兄に宜しく願上候。

追伸　上海領事會根益氏に面會仕り非常に有益なる話を聞き候。

(十二月十九日、佐藤養蠶科長、蒲生理事長宛)

出征會員慰問資金募集

出征會員に對する慰問資金を募集致します。慰問事業實行上に關する經費所要額に就ては本紙九月號へ登載の通りでありまして今後尚一層出征勇士に對する慰問に關しては努力致し度い覺悟であります何卒本會設立の趣旨御諒承の上奮つて御獻金賜はらんこさを御願ひ致します。

上田蠶絲專門學校同窓會銃後會

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て

應召された場合は其の旨本會迄御一報願ひます。本紙會員動靜欄へ登載以外に應召會員御承知の方は左記事項本會迄御通報下さい

1、應召者氏名

2、家族の現住所及氏名(留守中の通信先)

二、所屬部隊變更に就て御願ひ

軍務御多忙中甚だ御迷惑の御願で恐入りますが所屬部隊變更なされました場合は其の旨御一報願ひます。

三、召集解除者に就て

召集解除さなつて歸鄕せられし場合は直に御一報願ひます。

會費領收（十二月廿日現在）

昭和十三年度會費金四圓也

永井勝末(蠶十四)　小山哲夫(蠶十四)
阿部茂一郎(蠶十五)　前島正直(蠶廿二)
坂口育三(蠶廿二)　酒勾景雄(蠶廿二)
小笠原利一(絲四)　堀忠太郎(絲九)
太田正治(絲十二)　森西康充(絲廿二)
內山鶴雄(絲十三)　和田虎三(絲十三)
山崎修也(絲十四)　黑澤袈裟彥(絲十五)
手島孝一(絲十七)　赤松與一(絲十八)
關三四郎(絲九)　金子梓郎(紡一)
村島徹(紡二)　阿久澤孝典(紡四)
三宅玉留(紡四)　西村武男(紡四)
岡崎喜熊(紡四)　垣內源一(紡五)
橋本和夫(紡六)　島倉惣次郎(紡六)
市原安臣(紡七)　高坂嚴保(紡八)
北村育穩(紡八)　保々鐵三(紡十一)
齋藤猪之作(紡十二)　佐藤一郎(紡十三)
矢島行雄(紡十三)　柳澤六平(紡十六)
早田充利(紡十六)　平林孝方(紡十七)

未納會費納入者　金四圓也

枇杷木瀧雄(蠶九)　(十二年度分)
西澤正一(蠶廿二)　(九年度分)
水野義男(蠶廿二)　(十一年度分)
野間直之(紡十二)　(八年度分)

入會金五圓也　水野義男(蠶廿二)

銃後資金寄附者 第十三回

金參圓也　永井眞吉　上原淸夫
金貳圓五拾錢也　手塚芳太郎
金貳圓也　白井むつ
金壹圓五拾錢也　倉重ウメノ
金壹圓也　齋藤猪之作　酒勾景雄
山崎修也　馬場順一　三谷勝
右合計金拾圓也
累計金八百參拾九圓也

針塚長太郎先生謝恩記念資金申込報告（第七回 十二月廿日現在）

金參拾圓也　八木誠政(蠶三)
金拾五圓也　矢田部忠吉
金九圓也　宮城長雄
金六圓也　岸田繁雄
金五圓也　矢島行雄
金參圓也　馬場順一　池田三之助
金壹圓五拾錢也　倉重ウメノ
金壹圓也　田中てるよ　玉井光子
柳澤みや
右合計金七拾五圓五拾錢也
累計金壹萬〇貳百〇八圓也

針塚長太郎先生謝恩記念資金受領報告（第八回 十二月廿日現在）

金參拾圓也　八木誠政
金貳拾四圓也　木內保平　上原淸夫
金貳拾圓也　佐藤種雄
金拾五圓也　矢田部忠吉　中島靜太郎
登坂忠吉　內藤良雄　丸山武夫
二木猪一　宮澤勇　宮入誠一
長池遊龜
金拾貳圓也　大池登
金九圓也　三谷勝　阿部茂一郎
樋村忠義　宮城長雄　生井精一
內山鶴雄　中曾根長男　飯塚安治
阿久澤孝典
金六圓也　笠原四郎　齋藤猪之作
岸田繁雄　和田幸一　和田虎三
石川健丸(完納)　荒木喬
入佐一郎　古平義雄　井上一郎(紡一)
岡島米吉　中野保忠　中木武
手島孝一　萩野喜次　赤松與一
宮城忠夫　細井滿　唐澤正
金參圓也　馬場順一　小松忠幸
渡邊雪雄　內海弘　池田三之助
田口喜一郎　勝田淸三郎　新野武雄
進野精生　山崎修也　高木信雄
金貳圓也　小山俊吾(完納)
金壹圓五拾錢也　倉重ウメノ
金壹圓也　田中てる子　玉井光子
柳澤みや子
右合計金四百七拾九圓五拾錢也
累計金七千八百四拾圓也

故金子教授遺兒養育資金申込分報告（第九回）

金五圓也　永井眞吉
金壹圓五拾錢也　有賀正治
金壹圓也　古平義雄
計金七圓五拾錢也
通計金四千貳百八拾參圓也

故金子教授遺兒養育資金拂込分報告（第九回）

金拾圓也　綱島信一
金五圓也　齋藤正一郎　永井眞吉
金貳圓也　荒木喬
金壹圓五拾錢也　有賀正治
金壹圓也　古平義雄　小柳源一
計金貳拾五圓五拾錢也
通計金四千四拾壹圓五拾錢也

(十二月分訂正)

金貳圓也　遠藤文平　(重復ニツキ抹消)
金壹圓也　柄澤富雄　竹內正司　(何レモ重復ニツキ抹消)
通計金四千拾六圓也

支會通信

茨城支會便り

前澤生

昭和十三年度茨城支會の總會は十一月二十日を期して、日本精神發祥の地水戸に於て開れたのである。當日は折も折〇〇部隊の〇〇名の勇士が〇〇する日であり、我が支會々場に當てられたる多津美屋の窓下は、日の丸の國旗〇〇を〇〇する人垣で一杯であり、萬歳の聲軍靴の響きなりもやまず、誠に目にも耳にも非常時氣分がいやが上にも昻揚される日であつた。

有史以來の大業を銃後にありて翼賛するの光榮を双肩に擔ひ、國策の線に沿ひてまつしぐらに奮闘を續けつゝある吾等の同志は、なごやかに且つ緊張を失はず集り來たのである。

當日本部からは何方もお見えにならなかつた事は誠に遺憾であるが、佐藤支會長、船後大先輩を中心に、ガッチリ組んで母校發展の爲に獻身の努力を捧げつゝある事に御安心を願ひ度い。

吾が佐藤支會長は長野縣の産なれど十年此方土浦にあり、蠶種業を營む傍ら地方の爲に奉仕を惜まず、今では土浦町にさる人ありと知られたる名在鄕軍人分會長であり、時節柄体が二つあつても足りない程忙しいので、今日も少し遲れる由の電話があつた。然し船後大先輩がどッちりと早くから控えて居り、それに集り來る顏觸れ何れも相當なものだ。本日の出席者は次の如し。（順序不同）

佐藤　義助　寺島　雅彦
船後　勇平　岡崎　勘助
藤井　周藏　三瓶常四郎
榊原　春彦　坂口　正信
本谷　良雄　梶田　陞
川島熊太郎　岡本　正男
前澤　康雄

時や良し、座を改めてと云ふ頃元氣な聲がして佐藤支會長が驅け付けた。そこで先づ來る廿三日に開かれる代議員會の件に就き協議する事にした。問題の中心は議題で大部議論されたが何れも一方の旗頭だけに色々の迷論(?)が出る。其の意のあるところは勿論佐藤代議員が本部に於て餘すところなく發表してくれた事と信ずるが、母校並に同窓會の發展に就きて燃ゆるが如き熱意を有する事には誰彼の間に甲乙はないのである。

宴も愈々酣となれば各人の線が明確に表現されて來る。

佐藤支會長の聲は益々高く其の慨、一座を席巻するものがある。船後先輩は流石に調子が少しも亂れん、さながら大船に乘つた樣。藤井氏は宮内省の御役人だけに宮仕への氣品がある。本谷老人(?)頭の艶益々良し、酒も廻りて赫顏恰も蛸入道の如し。榊原氏極めて溫厚生眞面目鐘紡工場長の貫錄十分なり。鹿島神宮森下の川島君調子は依然穩かだ。取手の坊ちやん寺島君最近佳人を迎へて家庭を持たれた由、坊ちやんの令名(?)今回限り返上。大子の岡崎君頭を非常時形に丸めて大いに若返つた。水戸農の三瓶君と結城の坂口君母校時代同級とかで大部話が持てる。水所支所の岡本君、相もかはらずぼつり〳〵とやつて居る。下妻支所の梶田君張切つて全身之れ意氣……。

懇談は先づ學生時代の思出から、微な記憶の窓にうつろ、なつかしの事ども、たぐり〳〵て話は四方山に飛び、其の樂しさはつきぬものがある。

老も若きも打つて一丸となり其の間に何のかけ隔もなく、胸の底を打割つて、共に語り且つ喜び、共に論じ且つ憂ふ。誠に限りなく樂しき集ひではある。

結城の中山元老は法事の爲、眞壁農の橋本尺八氏は最近頓に健康すぐれず昨年頃より膽石を病み命膽石(旦夕)に迫れりと[illegible]膽(嘆)じ、蠶試の中曾根君御愛息の御病氣の爲（同君昨夏子供に病まれ又本年も度々の災難子を持つ親としての苦痛をさん〴〵に嘗めさせられた樣子、御同情に堪へぬ）蠶絲課の笠原君公務の爲、何れも止むなき不參となつて會に一抹の淋しさがあつた事は殘念であつた。

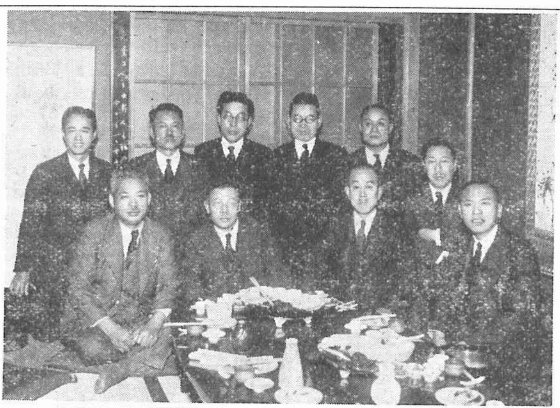
宴は愈々旺ん、話は益々佳境、其のつくるところを知らず。然し凡てに限度はある。惜しきところに名殘をとゞめ全員起立して母校の校歌を合唱した。なぜかは知らねど目頭の熱くなるのを感じた。最後に母校並に同窓會の萬歳を三唱し、「御互にしつかり行うぜ」の聲を殘して散會したのである。然し最後に斷つて置くが吾等は會の初めと終りに宮城を遙拜し、皇室のいや榮を壽ぎ奉り、尙護國の英靈と皇軍將士の御健闘に對し心からなる感謝の默禱を捧げる事を忘れなかつた事てある。

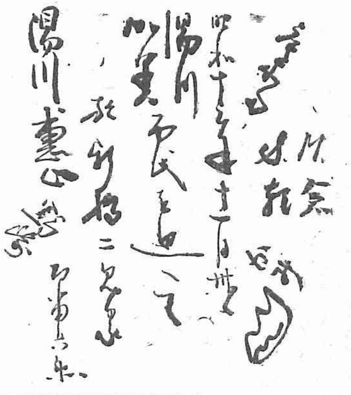
湯川、加美兩氏觀迎會

十一月三十日滿洲國より湯川秀夫兄（一蠶一）上京、折よく最近歸朝せる加美好男兄（絲三）も上田より入京、共に迎へて東京千曲會有志左記會合し記念の寄せ書き及撮影をなす。

一、時　十一月三十日午後七時
一、所　新橋烏森　二見家
一、出席人名　松村季美　原田兵衞　田口敏夫　八木誠政　朝倉　昇　野崎　清　唐木田藤五郎
一、主賓　湯川秀夫　加美好男

（唐木田記）





滿洲から

―超―

夏以來の都の姿は、あまり變つてもゐない。師走が一日一日と追ひつめられるやうに感ぜられ、落ちつかない事は丁度手洗ひに行き度くなつて、凝とこらへてゐるときのやうである。座つてゐても席が溫まらないのである。

大同大街あたりのビジネスセンターに一つ二つ新しいビルディングが、知らぬまに出來てゐて、にぎやかになつた。南湖の畔は高粱畑をひらいて、住宅街が立派である。

ひろ〴〵とした湖の畔に立つと、すつかり葉の落ちた楊柳の向ふに、國際列車が快く南へ走る。雪が降つて耳がちぎれるほどの寒さにとけようともしない。陽が美しく輝いてゐる。

小便で黃イな字を書く雪の朝

酒を酌んでの誰かの卽興。句になるかどうか。

ランチタイムのサイレンが鳴る。二人三人、スケーターが南湖に向つてゆく。若い女性もまじつて美しいフォームをみせてゐる。堤では風車がしづかに廻つてゐる。（新京南湖畔にて）

敍任辭令

母校の部

臨時副手　高田　正　氣
願ニ依リ臨時副手ヲ免ス
小　島　武　明
臨時副手ヲ命ズ
絹紡織科勤務ヲ命ス
十二月十五日（各通）
副手　小　松　忠　幸
願ニ依リ副手ヲ免ス
副手　日　幡　暎　一
願ニ依リ副手ヲ免ス
十二月十九日（各通）

卒業生の部

地方農林技師　宮　崎　清　治
和歌山縣農林技師ニ補ス
十級俸下賜（以上十二月五日）
上田蠶絲專門學校教授　倉　澤　美　德
滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ス（十二月三日）
地方農林技師　中　田　太　郎
願ニ依リ本職ヲ免ス（十二月十七日）

轉任御挨拶

拜啓時下初冬の砌高堂愈々御淸適の段奉慶賀候

陳者私儀長野縣下高井農學校に在任中は公私共格別なる御懇情を賜はり候段誠に難有奉深謝候

今回群馬縣立蠶絲學校に勤務致す事ゝ相成候に就ては今後共倍舊の御指導御鞭撻賜り度奉懇願候

先は乍略儀以紙上御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和十三年十二月
群馬縣立蠶絲學校
曾山直高
自宅　群馬縣碓氷郡安中町上ノ尻

訃報

大尾晨義氏逝去

養蠶科二十回卒大尾晨義氏（舊姓村山）は十二月十二日逝去された旨鹿兒島縣立宮之村農蠶學校櫻井吉利氏より通知があつた。謹んで哀悼の意を表する。同氏は母校卒業後福岡縣蠶業取締所に勤務し轉じて鹿兒島縣立伊佐農林學校に奉職せられたものである。

弔慰金募集

故草野弘氏（紡九）
故岡宮辰夫氏（蠶廿五）
故望月榮作氏（絲十三）
故服部令吉氏（蠶廿二）
故兒玉慶次氏（絲八）
故井手末馬氏（蠶十二）
故大尾晨義氏（蠶二十）

右七氏に對し弔慰金を募集致します故草野氏故岡宮氏故望月氏故服部氏は昭和十四年一月末日故兒玉氏故井手氏は同年二月末日故大尾氏は三月末日迄に取纒め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十四年一月

千曲會

弔慰金報告

故望月榮作氏弔慰金第二回
金壹圓也　山崎修也
累計金參圓也
故岡宮辰夫氏弔慰金第一回
金參圓也　矢野進
故服部令吉氏弔慰金第一回
金壹圓也　酒匂景雄

故笠原松平氏令閨きよゑ氏よりの禮狀

拜啓　今年も殘り少なになりまして御多忙の御事と存じます。御貴家御皆々樣益々御多祥の御事と御察し申上げます。過日町葬の節は御遠路わざ〳〵御丁寧にも御焼香並に御香典を賜はり厚く御禮申上げます。さぞかし泉下で主人も感泣して居る事で御座いませう。主人松平生前中は公私共多大の御懇情を賜はり常に御指導を受け御蔭樣にて大過も無く御恩の程身に泌み感謝致して居りましたのに何等の御恩返しも出來ず聖戰半ば一人淋しく永眠するとは夢想致しませんでした。乃木大將の歌に彈で死すとも病で死すなとあるのを思ひ浮かべ心ゆくまでの御奉公も叶はず病魔にさいなまれ異國の地に一人淋しく散つてしまひました笠原の氣持は如何ばかりかと察しつゝ堪へきれぬ思ひであまりのなさけなさに身の置き所も無い程で御座いましたが石井隊長始め戰友の方々からの詳細な御手紙を戴き氷の破片の流れる永定河を四十分もかゝつて向ふ岸に上つた時は天地も破れる萬歳の聲で某部隊長から軍人最高の名譽ある證明書を戴いたそうです。又種々の御なぐさめの御手紙を頂戴致しまして病死とは言へ武人として最期を遂げました事は幾分なぐさめられる氣が致します。此の度は色々と私の一身上にまで御配慮下さいまして何んとも御禮の言葉さへ見付かりません。誠に有難とう御座いました。直ちに御禮狀を差上げなければならないのでしたが一ト七日四十九日と忙がしくやつと前橋へ參りまして此の樣に遲れまして誠に申譯も御座いません。何とぞ故主人同樣今後とも幾重にもよろしく御懇願申上げます。御寒さ嚴しき折柄御自愛專一に遊ばしませ。先は御禮まで。かしこ

（十二月二十日附、蒲生理事長宛）

兒玉慶次君を憶ふ

河井生

兒玉君遂に逝去す。惜しい事をした。人絹界のためにも日本レーヨンのためにも又我等同窓にとつても實に痛恨事である。

先般安井兄より同君が胃潰瘍を病み入院したが幸ひ快方に向ひ目下自宅にて加療中なる旨聞いたばかりである。如何に親しい同窓でも同會社に勤めるとか同千曲會に籍があるとかでなければ日常の仕事に追はれ勝ちで仲々會合する機會はない。同君とも卒業後三度遭つた許りである。一度は數年前東海道線中で同君が岡崎の日本レーヨン出張の歸途で未だ宇治に居た頃の事である。又一昨年機會があつて安井兄と三人名古屋での會合と僅か二度に過ぎない。今日迄に築きあげた苦勞は恐らく同君の嘗つての直話以上に違ひない。製絲或は絹紡に進むのは基礎智識があるから割合に容易であるが當時の製絲科出が人絹界に進出し而もあれ迄になるのは迚も凡人で出來る業でない。

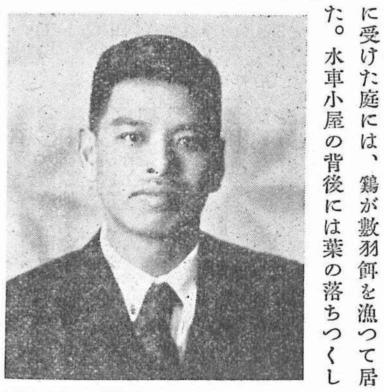
同君の頭腦明晰なことは學生時代校内で鳴らして居たもので僕は二年間六號室で居を共にしたが明日試驗と云ふ晩でも特に遲くまで起きて居ると云ふことはなく平常通りであつた。然し至つて話好きでこちらが一夜勉强をやつて居る時、例の鹽辛い聲でこれも平常通り話しかけられるのには困つたものである。同君のノートは要點が書いてあるだけで速記的のものではなかつた。又極めて明朗で何時もニコニコし決して怒つたことがない。上司に愛されると共に部下にも親まれ易い性質で誠に天性の人格者である。同君は常に朗らかであつた故に時折鼻歌を聞かされたものであるが歌に關する限り、聲と云ひ節廻はしと云ひ迚も聞きづらいものでこればかりは感服出來なかつた。從つて同君が大聲で歌つたことは殆んどなかつたのも思ひ出の種である。兎に角頭腦の明斷なことゝ此の明朗性が同君をして今日をなさしめた素因である。もう十年生きて居たら恐らく國家的の技術者として名をなして居たのにと今更乍ら愛惜の情を禁じ得ない。此處に簡單乍ら弔意を表すると共に同君の御冥福を御祈り申上げる次第である。

井手末馬君を思ふ

若林榮一

井手君について僕は忘れる事の出來ない二つの思ひ出を持つて居る。

一年生の年の秋も既に酣なある暖かい日の事だつた。午後の實驗か何かを早く片付けた僕は染谷の臺を何か六ケ敷しい事を考へながら獨り神川の橋の邊りまで歩いての歸り、小縣蠶業學校前の道路と水道の貯水池との中間の小道をゆつくり下つて來た。フト眼をあげると僕の下る道からは小さな谿流を越して向ふに藁屋根の水車があり、谿流をわづかに利用してゆるやかに水車が音を立て、陽を一杯に受けた庭には、鷄が數羽餌を漁つて居た。水車小屋の背後には葉の落ちつくした柿が眞紅の實を一杯につけて深い碧空に浮んで居た。僕は打たれた樣な感激を受けて暫くは其の光景に見取れたものだつた。胸の中のモヤ〳〵がすつかり溶けた樣な氣持で全く嬉しくなつて了つた。少しく下つた所で下から登つて來る井手君にあつた。



「秋を尋ねて」

と井手君は云つた。僕は默々として井手君を伴つて先程の小路を谿流に沿つて引き返した。僕はその光景を指した。

「秋はあれだ」

「あゝ」

井手君は僕の場合と同じ樣にしばらく呆然としたまゝだつた。水車は相變らず軋つて居るが人の氣はいもない。

「靜寂と暖かさと柿の色。これが俺の尋ねた秋だね」

それまで餘り親しいと云ふ程でもなく肉体的な逞しさに壓迫されて寧ろ輕い反撥心をさへ抱いて居た井手君の人間の一面に思はざる發見をして僕はしみ〴〵とした感激を感じたものだつた。

三年生の年の春蠶が濟んでゆつくりした氣分になつた時、二人で淺間山麓の高原に遊んだ事があつた。落葉松と白樺、空と煙、霧と細雨につゝまれた小瀨といふ温泉が馬鹿に氣に入つて了つて思はず數日間を過した。この時の事は詳しく述べる餘裕を持たないが兎に角僕は井手君の種々の面を知つた。

斯くして互の親密さを增して卒業前後には隨分打ちあけた話もしたし、相當立ち入つた問題にまで相談を受けた。

九州の人間だけに非常に情熱的な感激性に富んだ反面に、何處か孤獨を愛し靜かに自己を掘り下げて行く深さを持つた君だつた。あゝ云ふ性格が教育者としてよい影響を生徒に及ぼす事を疑はない。僕は形而下の大成と云ふよりもむしろ形而上の大成を同君に期待して居つたものだつた。

体軀は堂々たるものだつたが、卒業間際に肺炎を患つたりあまり頑健と云ふ方ではなかつたらしいが、同君の訃報に接した時には僕は全くその意外さに呆然とした。

特に家庭的に惠まれなかつたらしい同君の淋しい病床を思ふ時暗然たるものがある。相會するの機を得ざるまゝ久しい時を經たけれども、何時の日か互に昔を懷ひ現在を報じ將來を語る事の樂しみを僕の大きな喜びの一つとして期待したのだつたが今は其の望みも空しく失はれた。實に殘念に思ふ。同君の冥福を祈つて止まない。

最後に御遺族の健やかな御成長を祈る次第である。（寫眞は井手氏の遺影である。）

會員動靜（十二月十日現在）

神津永夫（現職）（勤）本校製絲科（住）小縣郡中鹽田村五加
佐藤良太郎（蠶二）（勤）從前通リ（住）津市下部田二〇ノ二〇
吉川誠彦（蠶三）（勤）奈良市、奈良縣廳綜合課
曾山直高（蠶四）（勤）群馬縣碓氷郡安中町、群馬縣立蠶業學校（住）安中町上ノ尻
岸田繁雄（蠶七）（勤）朝鮮慶尙北道大邱府、大邱公立農林學校（住）大邱府東雲町四七七
三好圭一（蠶八）（兵役）久留米獨立山砲兵三聯隊補充隊
川村吉太郎（蠶九）（勤）富山縣新川郡入善町、富山縣立入善農學校（住）入善町
北澤周一（蠶一〇）（勤）從前通リ（住）岐阜縣武儀郡美濃町常盤町
松原幸彌太（蠶一五）（住）三重縣度会郡小俣町（召集解除）
山本誠（蠶一五）（勤）山口市、山口縣經濟部農務課
岩下龍哉（蠶一八）（勤）上水內郡三水村、上水內北部農學校（住）三水村普光寺久保幹男方
六川忠一郎（蠶一八）（勤）從前通リ（住）神奈川縣高座郡茅ケ崎町東海岸二、一九六
村田一由（蠶一八）（勤）從前通リ（住）新潟市山ノ下臨港町一丁目
百瀨哲一（蠶一八）（住）仙臺市伊勢堂下一番地
竹內博雄（蠶一九）（應召先變更）
林四郎（蠶二一）（勤）群馬縣北甘樂郡富岡町郡農會內、產業組合中央會群馬支會（住）富岡町北甘樂郡農會內
鈴木茂（蠶二二）（應召）
羽吉正碓（蠶二二）（住）栃木縣小山町御殿町城山前二、三九五
會田誠司（蠶二五）（兵役）近衞步兵二聯隊九中隊
清水良一（蠶二五）（兵役）
矢野進（蠶二五）（兵役）
森田三郎（絲四）（勤）橫濱市中區南仲通三丁目、長野縣生絲共同施設組合、電話本局三二（住）東京市大森區馬込町東三ノ六三〇、電話大森五、三一二
藤井料（絲五）（勤）水戶市、茨城縣廳內茨城縣肥料卸商業組合（住）水戶市下金町一、五三七
佐藤種雄（絲六）（勤）大阪市東區內本町橋詰町三一ノ一、日本生絲輸出組合（住）大阪市住吉區天王寺町三、二八六ノ一
神戶敏夫（絲一二）（應召）
松井正次（絲一三）（勤）神戶市新港町三菱倉庫內、郡是製絲株式會社（住）神戶市灘區中鄕町三ノ一八
湯澤稔（絲一四）（勤）京都府綾部町、京都府繭檢定所
正木章三（絲一六）（住）平塚市馬入二四六八宮代方
中木武（絲一七）（勤）名簿通リ（住）橫濱市神奈川區白幡町一、一八三
越英暢（絲一八）（勤）兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾大東一、川西航空機株式會社研究部（住）鳴尾村本鄕西北二三植田方
鳥羽誠（絲一九）（勤）朝鮮新義州府濱町一番地、田中工務所
石井清六（絲二〇）（勤）全羅南道光州府鶴岡町、鐘紡光州工場（召集解除）
岩切作次（絲二二）（應召先變更）
河合式太郎（絲二二）（應召）
太田速雄（絲二五）（兵役）朝鮮羅南山砲兵二五聯隊九中隊一班
成澤榮一（絲二五）（住）上田市三好町　松井病院
濱田浩（絲二五）（住）三重縣南牟婁郡有井村大字羽市木
會田正一（絲二五）（住）福島縣若松市馬場一ノ竪八番地
小松忠幸（絲二五）（兵役）
島倉惣次郎（紡六）（住）足利市通六丁目（療養中）
宮西憲二（紡七）（勤）大阪市此花區上福島中三ノ八四、發動機製造株式會社福島サービス部（住）仝上（訂正）
內藤邦雄（紡九）（勤）大阪市、大阪府經濟部商工第二課（住）大阪市住吉區阿倍野筋二ノ三府官舍（訂正）
武井一郎（紡一〇）（勤）入吉武井組營業所（住）岡谷市西堀
上田正三（紡一五）（應召先變更）
伊藤二男（紡一七）（兵役）朝鮮羅南山砲兵第二十五聯隊第四中隊第二班
小林龍太（紡一七）（住）愛知縣寶飯郡鹽津村竹谷
小畠武明（紡一七）（勤）本校絹紡織科
宮下闡（教一）（勤）中華民國山東省濟二馬路、吉祥公吋大藥房
仲藤潮（教四）（勤）岐阜縣可兒郡廣見町、岐阜縣繭檢查所
黑澤壽子（教五）（勤）滿洲國奉天省海城縣、農事合作社農產物加工場

名簿訂正ノ部

頁	姓名	誤	正
四四頁	山本卯一		（住）抹消
五三頁	伊藤幸男		（住）抹消
六〇頁	中島俊秋	長瀨村	長村
一二七頁	植田實		應召ヲトル
仝	大塚浩	貝塚紡織人見工場	（勤）大阪府泉南郡貝塚町、貝塚紡織株式會社
	木內保平	（住）橫濱市中區釜田町境ノ谷二四	（住）橫濱市境ノ谷二四
八七頁		岡本榮一	岡本榮一
一〇五頁	野本信次	愛和縣	愛知縣
一〇九頁	製絲科二五回	二九名	三二名
一六頁	寺島親雄	靜岡縣	福岡縣
五五頁	川中貞次	試驗所	試驗場
八四頁	落合義郎	泊多野	波多野
九頁	大名昇	Ragie	Bragil
六七頁	水谷鄉一	蠶檢定所	繭檢定所
一一六頁		山下矢之郎	山下矢之助
一一八頁		高坂嶋保	高坂巖保
一二三頁		齋藤猪之助	齋藤猪之作
索引一四一頁		井出英夫	井田英夫
仝　一四五頁		川村太郎	川村吉太郎

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
井上柳梧

謹んで躍進日本の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
針塚長太郎

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
遠藤保太郎

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
原田親雄

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
佐藤春太郎

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
古谷榮藏

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
內田浩

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
奧正巳

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
行元自忍

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
進藤憲三

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
須田圭二

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
尾見益男

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
八木誠政

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
山口定次郎

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
宮坂收

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
細川豊

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
小林敏

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
關博夫

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
武井仙太郎

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
市原政治

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
阿形一三

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
瀧澤七朗

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
塚田典次

謹んで戰勝の新年を賀す
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
林貞三

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
窪田潤

新春を迎へ應召將士の武運長久を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
荻原清治

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
山田良人

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
古平庄衛

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四元旦
上田蠶絲專門學校
山崎嘗錄

謹賀新年
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
野口新太郎

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
阿久澤孝典

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
宮下丈夫

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
小林尙一

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
小澤利雄

新春を迎へ皇軍の戰勝を祈る
昭和十四年元旦
上田蠶絲專門學校
小畠武明

投稿規定

一、內容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。輯編の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。

一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

一、締切は每月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

一、原稿は開封し三錢切手（第四種百二十瓦迄）を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

一、必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假名でお書き下さい。又句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

一、匿名で掲載希望の場合も輯編部丈へは姓名をお明し下さい。然らざれば遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以內とし必ず白紙に墨書して下さい。

一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字丈書込まれ度い。

廣告規定

寸法／期間	一月	六月	一年
一頁	13、00円	64、00円	120、00円
1/2頁	7、50	40、00	70、00
1/4頁	4、50	23、00	40、00
1/8頁	2、50	13、00	24、00
1/16頁	1、50	7、50	14、00
1/25頁	1、00	5、50	10、00

但し本會員は七掛とす。

編輯室より

△謹んで躍進日本の新年を賀し奉ると共に戰線に奮鬪せらるゝ會員に對し感謝の意を表します。舊年中は色々御厄介になり誠に有難う御座いました。本年も相變らずお願ひ致します。

昭和十四年元旦
千曲時報編輯部
香山清和
湯原諄
町田博
征矢克郎

△年賀廣告に對しては時局を認識し虛禮廢止の意味と本紙援助の意味をよく御諒解下され多數御申込あつた事を衷心より感謝致します。

△先月號に於て和田先生の年賀缺禮廣告に於て母喪中と記すべきを父喪中と誤記し和田先生は勿論會員諸氏にも多大なる御迷惑を掛け何んとも申譯無い。此處に謹んでお詫び申上げると共に今後編輯に萬全の注意を拂ひ斯る失態なき事を誓ふものである。

△粟栖超氏の「滿洲便り」はハガキに書いてあり河井氏の「兒玉慶次氏を思ふ」は便箋に書いてあり、何れも編輯部で原稿紙に書き直した。今後原稿紙に十八字詰に書かれん事を望む。

昭和十四年度蠶種案内
○交雜種
×龍華仙 浙江
×龍華仙 滿月系
×龍華仙 浙江（新）五粒定粒用
×分離白一號 滿月系
○原蠶種
龍華仙　分離白一號
分離白二號　浙江
滿月系　國蠶支一〇六號
○病毒皆無
廣島縣御調郡奥村綾目八七六
蠶種業　小川保
電話市村局十一番（甲本宅／乙蠶種部）
振替　廣島二四六番　大阪二〇七六三番